opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 -9

1928年10月2日、ホセマリア・エスクリバーは神の特別な霊感を受けます。

2023/05/29

過去の記事はこちらから

聖ホセマリアの名字「エスクリバー」は書記を意味します。その名の通り、聖ホセマリアは書くことに熱心で、神の呼びかけを感じてからは多くのメモを残していました。それを読むと、現代社会の中でキリス

ト信者が無力になっていると心配していたようです。信者の中には教たの中では「あたっまり社会の中では「あたっち何も信じていないかのような」このは「ないないは信仰は個人の生活の中では「ないないとはできません。ことはできません。ことはできません。こかと考えていました。

スペインでは学校は7月から9月末まで夏休みです。ホセマリア神父は夏 も病人訪問などの仕事を続け、同時に大学の試験の準備もしました。 金も時間もない身には予定通はありませんでしたが、それでも1928年9月に二科目に合格しています。とができ、この期間を利用して司祭に参加することにしました。 黙想会は9月30日に始まりました。 ホセマリアは結構な量のノートとメ モを持ち込みました。10月2日の 朝、講話と講話の間の自由時間にそ のメモを整理していたときのことで す。突然特別の恩恵に包まれまし た。そして、ほぼ10年のあいだ「見 えますように」と祈ってきたことが 見えたのです。しかし、神父はこの とき何が起こったかについて多くを 語らず、ただ「オプス・デイの本質 を見た | と言っていました。確かな ことは、ほんの数秒の間に神父が 「すべての人が聖人になるように招 かれており、世間で生活する信徒は 各自の職務を神と一致して果たすこ とによってキリスト教的な完徳に達 成できる」ことを理解したというこ とです。感動のあまり神父はその場 で跪いて神に感謝の祈りを捧げまし た。

この新しい教えを人々に伝えるのが 神の望みなら、今までの通りその使 命のために自分のすべてを捧げる覚悟でした。しかし、それでは自分は何をすれば良いのでしょうか。それについては何も示されていませんでした。再び「見えますように」と神に祈り続けることになったのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-9/ (2025/12/15)